

事業計画

1 実施事業

(1) 地域住民のウェルビーイング向上に向けた支援体制の構築

《河川利用促進》

■河川オープン化等の支援

筑後川での賑わいの在る水辺空間の利活用の推進を目的とし、今後の「かわまち」や「ミズベリング」を見据えた地域の活性化や観光に資する取り組みを支援します。

令和7年度は、河川空間の賑わいづくりに取り組んでいる住民団体のパネル展示を久留米市役所、筑後川河川事務所で開催中。地域住民団体相互の連携体制構築など自ら持続可能な取り組みとなるように支援を図っていきます。

《流域情報の共有》

■筑後川市民大学

「筑後川市民大学」は、一般市民の筑後川に対する関心を高めることを目的として、①誰でもいつでも筑後川流域の情報が手に入れることができること、②筑後川の新しい人材を育てること、③筑後川に楽しさや参加環境をつくりだすことに取り組んでいきます。

令和7年度は河川に関心を寄せ利活用を実践しようとする人たちにとって役に立つ、そして使いやすいプラットフォームとするため、筑後川市民大学(仮称)の構想を具体化を進めていきます。

■筑後川の未来地図を描こうプロジェクト

筑後川流域の活性化を図るべく活動している市民団体の多くが、構成委員の高齢化及び地域単位での活動となっています。今後、「流域」としての活動活性化をめざし、筑後川流域の上下流連携を推進するとともに若い人材を育成していくことを検討しています。一昨年の筑後川本格改修100周年という節目の年が、新たな若い世代による流域連携の「きっかけ」となりました。

令和7年度も定期的に「筑後川の未来地図を描こうプロジェクト」による、若い世代の上下流交流の場を設け、次世代の発掘・育成を継続して行っていきます。

■流域情報交換会

当協会では、河川を通じて流域、地域の将来について考える機会を提供することを目的として、流域の首長による情報交換会を開催しています。関係する自治体等が集まって、川を生かした地域づくり(地方創生)及びその実現のための情報交換や議論は、非常に有意義なものとなっています。

令和7年度も、引き続き対象を流域にまで広げ、河川や水との健全なつながりを通じて、地方の方々のウェルビーイングが高まることを意識して関係者の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

《河川愛護》

■ 絵画コンクール・フォトコンテスト

子どもたちの河川愛護、啓発活動の一環として、未就学児から小学生を対象に「私の川・夢プラン(こんな川にしたい)絵画の募集」を平成30年度より実施しています。

今年度も教育委員会や川で活動する団体と連携した募集活動を行うとともに、子どもたちへ河川愛護啓発が伝わるよう全応募作品を掲載した作品集を作成します。

■ 河川空間を利用した子どもドローン教室

令和7年度は、筑後川河川敷において、河川オープン化支援の取り組みの一環として子どもたちを対象としたドローン教室を行います。

《NPO等活動支援》

北部九州の各流域で活動している市民団体やNPO組織に対して、広く公募により呼びかけを行い、河川利用・河川愛護に寄与する事業の円滑実施に向けた支援を行います。

令和7年度は、46団体の認定を行います。

(継続応募38団体、新規応募8団体)

(2) 時代の要請に基づく安心・安全技術向上のための調査研究

《研究会》

■ 九州河川維持管理技術研究会

河川維持管理に関わる人材、予算ともに切迫した状況に対応した効率的な河道管理を目指すため、九州各地で活動する河川維持管理技術者を集め、河川維持管理に関する諸課題に関する議論を重ね河川技術の向上を図ります。

研究会では、ワーキング形式で議論を重ねています。年末には高い見識のあるアドバイザーを招いた研究会を開催します。研究会で得られた成果は、各種業務に反映させ九州全体の河川技術向上を目指します。

令和7年度は、九州管内で発生している実際の課題、現象に対し、解決に向けた検討・議論を行います。

《講習会》

■ 安心・安全技術に関する講習会

九州の河川に携わる技術者の育成を行う事で維持管理に関する質の高い知識を広め、定着させることを目的とした講習会を行います。令和6年度は、河川管理における心得や、近年の九州河川の状況、最新の技術をご講演いただく「九州の河川維持管理技術に関する講習会」や河川管理に関する実践的かつ高度な技術について講習していただく「九州河川技術に関する講習会」を開催してきました。

令和7年度も継続的に開催し、九州の河川技術者の技術力研鑽に貢献していきます。

《技術蓄積》

■安心・安全に寄与する為の基礎データの収集・技術力の強化・人材育成

近年は気候変動に伴う集中豪雨や大雨の激化とともに、全国各地で水害の頻発化、激甚化が見られます。この洪水を安全に流下させるためにも、日頃から河道や河川堤防などの河川状態を的確に把握することは重要です。そのような中、最新の技術等を活用することによる基礎データの収集・技術力の強化及び人材の育成を行います。

■九州建設技術フォーラム

新しい建設技術の開発・活用・普及の促進をより効果的に図るため、「産」「学」「官」それぞれが新技術の開発・活用の取組について情報を発信し、「産」「学」「官」で技術情報のプレゼンテーションや展示、新技術相談などの形を取りながら連携を深め、九州のさらなる建設技術の発展を目指します。

今年度も、引き続き「産」「学」「官」の連携を深め開催予定です。

(3) 広報活動の充実

《広報活動支援》

■九州川の情報誌 かわとも

河川の特徴豊かな魅力を様々な切り口で紹介し地域に住む人々の河川に対する興味関心を高めることを目的に、住民目線で川の情報誌を編集し、市民、活動団体及び行政等に幅広く発信します。

今年度も引き続き、九州各地の河川で活動する団体の情報を収集し、地域の特色や団体の思いを反映した情報誌を発行します。

■筑後川新聞 支援

筑後川とその周辺地域の住民らによる活発な地域づくりに対し、情報の共有化を図ることを目的に、当協会の支援事業等の情報を提供しています。

今年度も「筑後川新聞」等を活用して住民団体の優良活動事例や当協会の支援事業等について投稿していきます。

■筑後川100年誌の発行

国土交通省筑後川河川事務所は、前身の「筑後川改修事務所」の大正12年(1923)開設から令和5年(2023年)に「100周年」を迎えました。この「筑後川本格改修100周年」を支援する記念事業として、これまで先人たちが取り組んできた筑後川改修の取り組みとともに、筑後川流域の様々な文化や歴史など紹介する書籍「餘澤千歳―筑後川～人と川の物語～」の出版・発行を行います。

引き続き、令和7年度中の「下巻」出版・発行を目指して、編集作業を進めます。

「下巻」は筑後川流域における文化や歴史など幅広い分野の内容となる予定で、さらに「読み物」としても充実した内容となる予定です。

■社会貢献事業の拡がりに向けての広報活動

協会が行っている社会貢献事業の拡がりに向けた広報活動を行っています。

ノベルティやイベントなどでのPR、その他の方向について、協会職員の若手を中心に検討していきます。

（４）防災意識の醸成の取り組みサポート

《 防災 》

高齢化社会に向けて自助を助ける共助の取り組み支援として、「水防災意識社会の再構築」活動への支援、共助の担い手となる活動への支援や災害で被災した地域への復興支援を行います。

■九州豪雨復興活動支援

平常時における避難対策への備えを把握するため、甚大な被害を受けた流域への復旧支援活動や住民目線に立った防災学習を実施し、住民の防災意識の向上を図ります。

令和 7 年度は、甚大な被害を受けた流域において、支援を名乗り出た複数の河川で活動する団体により組織された「防災・災害支援チーム」での活動を支援します。

■水防災を考える活動支援

近年の大規模な豪雨災害の発生により、「自助・共助」の意識を高め早めの避難行動に備えるなどの水防災意識の構築への関心は高く、関係者における水防災活動に役立つものとなるための情報共有を行います。

令和 7 年度も、各地のイベントに参加し、水防災ブースを設け活動します。

＜令和7年度 特定資産の活用による公益事業実施計画＞

令和7年度の公益事業は第三者機関である「事業評価・支援委員会」において以下の事業が承認されました。

令和7年度 公益事業の実施計画

【1】地域住民のウェルビーイング向上に向けた支援体制の構築【単位：千円】

事業名	実施内容	R7計画額	備考
河川利用促進	河川オープン化等の支援		
流域情報の共有	筑後川市民大学		
	筑後川の未来地図を描こうプロジェクト		
	流域情報交換会		
河川愛護	絵画コンクール・フォトコンテスト		
	河川空間を利用した子どもドローン教室		
NPO等支援	公募事業(46件)		
小計		23,800	

【2】時代の要請に基づく安心・安全技術向上のための調査研究【単位：千円】

事業名	実施内容	R7計画額	備考
研究会	九州河川維持管理技術研究会		
講習会	安心・安全技術に関する講習会		
技術蓄積	安心・安全に寄与する為の基礎データの収集・技術力の強化・人材育成		
	九州建設技術フォーラム		
小計		4,700	

【3】広報活動の充実【単位：千円】

事業名	実施内容	R7計画額	備考
広報活動支援	九州川の情報誌 かわとも		
	筑後川新聞 支援		
	筑後川事業100周年誌(下巻)発行		
	社会貢献事業の拡がりに向けての広報活動		
小計		5,600	

【4】防災意識の醸成の取り組みサポート【単位：千円】

事業名	実施内容	R7計画額	備考
防災	九州豪雨復興活動支援		
	水防災を考える活動支援		
小計		900	

間接経費		10,000	
合計		45,000	

2 収益事業

(1) 公物管理業務

河川管理の一環として河川巡視、堤防点検、堰等管理支援、許認可等、公物管理支援業務及び行政支援業務を受注し、適切な河川管理に貢献していきます。

筑後川・矢部川水系河川巡視支援業務（R7年度）

佐賀河川事務所管内河川巡視等支援業務（R7年度）

佐賀導水路河川巡視外支援業務（R6・R7年度）

筑後川・矢部川堰管理支援業務（R7年度）

嘉瀬川大堰等管理支援業務（R7年度）

筑後川・矢部川水系河川許認可審査支援業務（R7年度）

武雄河川事務所管内許認可支援業務（R7年度）

六角川水系河川巡視等支援業務（R6・R7年度）・・・JV

松浦川水系河川巡視等支援業務（R6・R7年度）・・・JV

菊池川水系河川許認可審査支援業務（R7年度）

山国川水系許認可審査支援業務（R7年度）

について、引き続き実施します。

(2) コンサルタント業務等

北部九州4県の河川で、河川管理及び地域活力の発展に寄与するためのコンサルティング等の業務を実施します。

また、河川協力団体等の連携強化を図るための情報交換等の事業を行います。